| | | |
|---|---|---|
| タイトル | 乳酸菌L—137摂取による免疫学的ハイレスポンダーの単球活性化と免疫に関連する自覚症状の改善—ランダム化二重盲検プラセボ対照比較試験の再解析－ | 乳酸菌L—137摂取による免疫学的ローレスポンダーの血清Ⅰ型インターフェロンの上昇と上気道症状の改善—ランダム化二重盲検プラセボ対照比較試験の再解析— |
| 試験時期 | 2005年5月-8月 | 2011年12月-2012年3月 |
| HKL-137<br>1日摂取量 | 10 mg | 10 mg |
| 解析対象者 | 全体45名（免疫学的ハイレスポンダー：対照群15名、試験群14名） | 全体78名（免疫学的ローレスポンダー：対照群25名、試験群27名） |
| 結果 | 単球CD64　8週目に群間有意差あり<br>免疫関連自覚症状　12週目に群間有意差あり<br>風邪関連自覚症状　8、12週目に群間有意差あり | 血清INF-β　12週目に群間有意差あり<br>上気道症状（出現数）　試験期間を通じて群間有意差あり<br>上気道症状（医薬品使用期間）　試験期間を通じて群間有意差あり |
| 備考 | ・免疫学的ハイレスポンダー：T細胞増殖能が高値から順に半数を超える被験者＝免疫機能が良好に機能している者 | 免疫学的ローレスポンダー：心理的および身体的ストレス反応が80点以上の被験者、および心理的ストレス反応が56点以上かつ身体的ストレス反応が21点以上の被験者＝ストレスを感じている者 |

単球：pDCとは異なるミエロイド系樹状細胞（cDC）に分類される。
血清Ⅰ型インターフェロン：pDCの産生物質

異なる系統の樹状細胞が関与する作用を示すことで、pDCそのものの活性指標ではないが、ピラミッドロジックを示そうとしたものと思われる。免疫系全体の改善になることを示そうとしたのではないか。